

# 2020年度 活動報告書

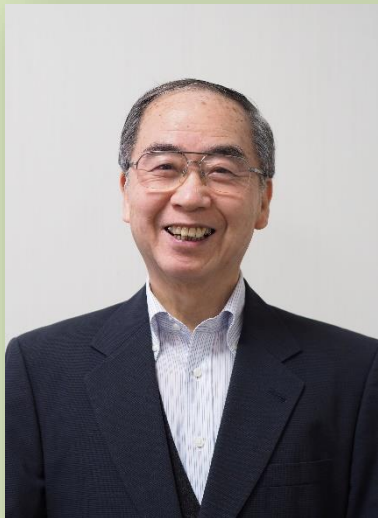
2020年4月～2021年3月

## 一般財団法人 再工不協同基金



2020/11/28 春日山原始林を歩こう

## ごあいさつ



世界の「気候異変」は、人間の化石燃料によるCO<sub>2</sub>過大排出が原因との科学的見解が示され、世界は2050年までにCO<sub>2</sub>排出ゼロの目標を掲げています。立ち遅れてきた日本も昨年ようやく政府が「2050年CO<sub>2</sub>ゼロ」を宣言しましたが、遅れの回復のためには厳しい政策が必要です。先進企業では「RE100」（再エネ100%）表明など積極的ですが、私たち市民も政府や企業への要望とともに、暮らしにおいてRE100に近づけられる工夫を重ねていく必要があります。再エネ協同基金はその活動を積極的に支援してまいりますので、今年度も一緒に活動を進めてまいりましょう。

一般財団法人 再エネ協同基金  
理事長 瀧川 潔



新型コロナウイルス禍が続いており、その影響で2020年の世界のCO<sub>2</sub>排出量は5%強の削減になりそうです。今後は、コロナ禍の収束と共に元通りに戻すのではなく、さらにCO<sub>2</sub>排出量を削減し続けるグリーン・リカバリー（環境保全的復興）を目指さねばなりません。やっと、日本政府も2050年にCO<sub>2</sub>実質ゼロ方針を打ち出し、昨年末から2050年の電源構成等の協議が始まりましたが、再生可能エネルギーは構成比50~60%で、原子力と火力を30~40%も残す方針です。再エネ協同基金の取り組みにご協力、ご参加いただき、安全で持続可能な再エネ100%社会の実現を目指しましょう。

一般財団法人 再エネ協同基金  
評議員長 和田 武

## 2020年度 会員数・会費の使いみち

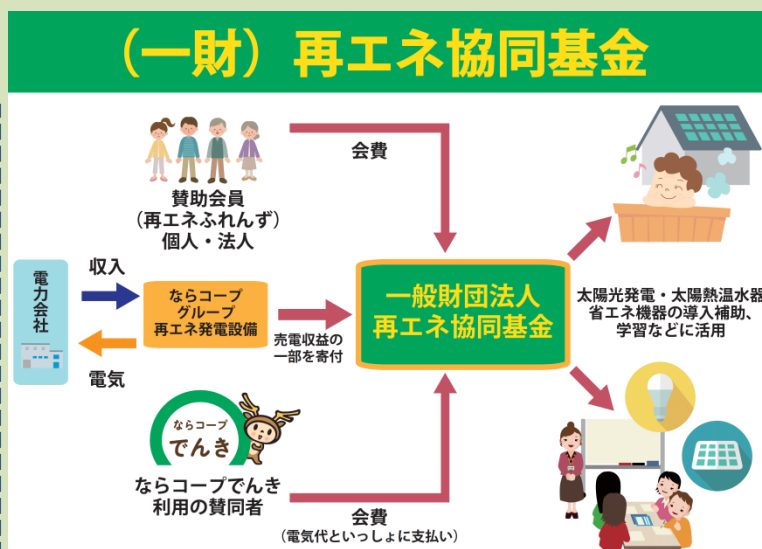
個人会員 653名  
法人会員 23団体

### 《収入》

会費収入 : 468,000円  
寄付金収入 : 4,020,000円  
※市民生活協同組合ならコープ  
(株)コープエナジーなら・個人寄付など

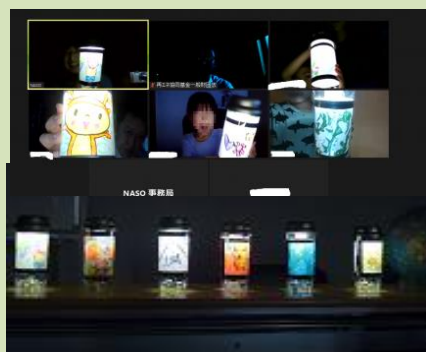
### 《会費・寄付金の使いみち》

学習事業 : 1,149,000円  
助成事業 : 1,133,000円



# 2020年度 学習活動（参加人数のべ209人）

NPO 法人奈良ストップ温暖化の会、ア・マ・テ・ラ・ス等と協力し10講座を開催しました。新型コロナウイルス感染拡大予防のためいくつかの講座はオンライン開催となりましたが、日頃ご参加いただけない多忙な方や遠方の方にご参加いただくきっかけとなりました。密を避けての戸外での講座が人気で、「榧（かや）の実拾いとクッキング」、漆の原木染めを体験した「曾爾村自然満喫体験」やうだ夢創の里での「エコクッキング&市民発電所見学」、災害時にも役立つ「ロケットストーブ作り」などに沢山のご参加をいただきました。2月には建築家竹内昌義氏をお招きして、環境に優しく光熱費も安い「断熱効果の高い建物」についてのオンライン講演会を開催し、地球温暖化の現状がよく分かり、いますぐ使える知識も多く大変役に立ったと好評でした。



2020/7/4 ソーラーランタン作り



2020/10/7・14 鍋帽子®作りと保温調理



2020/12/6 ロケットストーブ作り



2020/10/22 曾爾村自然満喫体験



2021/2/13 建築家竹内氏講演会 「脱炭素社会の建物のあり方」



2020/10/31 うだ夢創の里エコクッキング & 市民共同発電所見学

項目	申請件数	助成金額
太陽熱温水器	50,000	0
ペレットストーブ	50,000	1 40,000
太陽光発電 1kWあたり	10,000	9 233,000
住宅用定置型蓄電池 1kWあたり	10,000	14 560,000
断熱窓		9 160,000
冷蔵庫、エアコンの買替	5,000	0 0
節水型トイレ 一台につき	10,000	2 40,000
ゴールド倶楽部定期券補助		
発電事業	50,000	0 0
V2Hの導入	50,000	0 0
V2HとEV車のセット導入	100,000	1 100,000
調査研究・学習活動	50,000	0 0
合計		36 1,133,000

2020年度助成事業  
助成額 1,133,000円

再生エネルギーが再生可能エネルギーや省エネルギー機器を導入した場合、費用の一部を助成しています。2020年度は太陽光発電設備・蓄電池の導入等36件、総額1,133,000円を助成しました。

## いざという時に頼れる「V2Hシステム」ってなんだろう？

V2Hシステムという言葉をご存じでしょうか？『Vehicle to Home』日産リーフなど電気自動車のバッテリーに貯めた電力を家に戻して使える新しい蓄電の形です。

再エネ協同基金では 2020 年度よりこの V2H システム導入へ助成を開始いたしました。

そして今回助成制度をご利用いただいた T 様のお宅へ伺い工事を見学させていただきました。

阪神淡路大震災がきっかけで災害に強い家をと考えられた T 様は既に太陽光発電設備と住宅用蓄電池を備え付けていらっしゃいましたが、日照時間の少ない冬場に電力が不足することを懸念され、停電時のバックアップとしてV2Hシステムの導入に踏み切られたそうです。太陽光発電設備が1日0kWh~21kWh発電するとして、蓄電池に蓄えておける電力は9kWh弱、V2Hシステムを介して電気自動車から得られる電力が56kWh弱、両者を合わせると災害時でも電力は十分です。ただ、現在両方を導入する例が殆ど無いためV2Hシステムと蓄電池を連携することが難しく、T 様も完全に希望した形とはならず、コンセントを増設し、いざという時は電力の供給源を切り替えるという形で対応されました。

太陽光発電設備をお持ちの方が、災害時に備え蓄電池かV2Hシステムのどちらか一方を導入するとすれば、どちらがおすすめですかと伺ったところ、EV車を所有していて普段車が家にある場合はV2Hシステム、EV車を所有していない、或いは所有していても通勤等に使用して普段家がない場合は蓄電池がおすすめです。

2030年代半ばにはガソリン車の販売が禁止になるとも言われています。EV車を次の車にと考えていらっしゃる方は、この機会にV2Hシステムの導入も検討されてみてはいかがでしょうか。

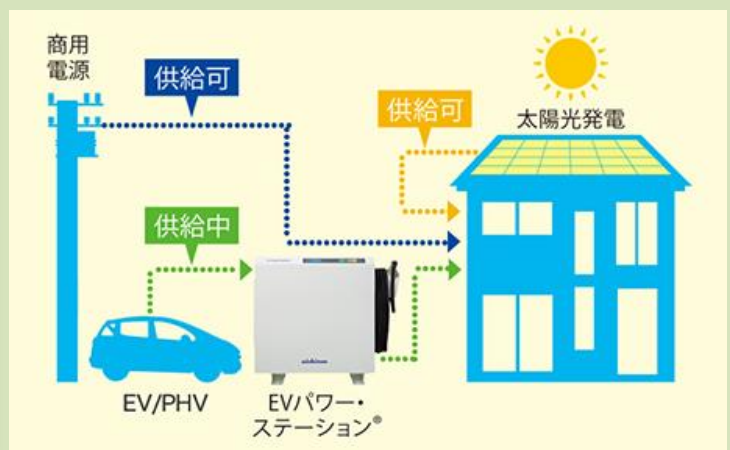


イラスト ニチコン（株）ホームページより

### ～賛助会員募集～

再生可能エネルギーや省エネルギーを推進する仲間、再エネふれんずを募集しています。一緒に地球の未来を考えましょう。

年会費 1口1,000円（個人会員1口・法人会員（非営利法人除く）10口以上で受付）

再エネふれんずになると助成金の給付のほかに、学習企画参加費の半額補助が受けられます。

詳しくはホームページにてご確認ください。

〒630-8503 奈良県奈良市恋の窪一丁目2番2号

TEL. 0742-33-9528 FAX. 0742-34-8060

ホームページ：<https://www.naracoop.or.jp/saiene/>